

**平成 27 年度 第 1 回 稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議
議事録 【要点記録】**

【開催日時】平成 27 年 10 月 22 日（木） 午後 7 時から 8 時 35 分

【会 場】消防署 3 階 講堂

【出席者】■委員；出席者 14 人

- ・ 稲城市自治会連合会（川島 幹雄氏）
 - ・ 稲城市商工会（奈良部 義彦氏）
 - ・ 稲城市消防団（城所 達也氏）
 - ・ 稲城市体育協会（中家 敬士氏）
 - ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
 - ・ 教育関係及び稲城市三曲協会（粟井 洋子氏）
 - ・ 稲城市芸術文化団体連合会（安東 道正氏）
 - ・ 稲城市学校 PTA 連合会（高橋 やよい氏）
 - ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
 - ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
 - ・ 東京稲城ロータリークラブ（川島 保之氏）
 - ・ 国際ソロプチミスト稲城（砂塚 有子氏）
 - ・ 稲城青年会議所（椿 克之氏）
 - ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）
- <欠席>稲城市農業委員会（松本 一宏氏）

■行政

- ・ 稲城市長（高橋 勝浩）
- ・ 事務局 4 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（杉本 勇人）、
企画政策課計画調整担当係長（宇田 雅彦）、企画政策課主任（井田 聡）

【開会及び市長挨拶】

宇田 係長：定刻になりましたので、平成 27 年度第 1 回稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議を開催いたします。委員長、副委員長が決まるまで、企画政策課宇田が司会進行を務めさせていただきます。はじめに、高橋市長よりご挨拶を申し上げます。

高橋 市長：みなさんこんばんは。大変、夜分遅くに皆様にお集まりいただきまして、ありがとうございます。だいぶ、秋の深まりを感じるところでございます。朝晩大変寒くなってまいりましたが、お身体にはお気をつけてお過ごしいただきたいと思っております。

さて、本日、稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議が発足ということで、これからご検討いただくわけではありますが、本年度は既に、相馬市あるいは野沢温泉村との友好都市提携に向け、この間、友好都市提携検討市民会議をやらせていただきまして、5 月 23 日から 24 日に相馬市のほうに視察をしていただきました。その後、8 月 18 日に相馬市と友好都市協定の締結をしております。また、6 月 27 日から 28 日には、野沢温泉村にも視察をしていただきまして、11 月 17 日に友好都市協定の締結をする予定であります。

友好都市提携検討市民会議では、相馬市及び野沢温泉村との友好都市提携に向け検討していただいたわけですが、このメンバーに、今回、海外交流などにも関係されているメンバーを加えまして、新たな稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議ということで発足をさせていただき、今後ご検討をお願いするわけですが。

私の方からご検討いただく項目について端的に申し上げますと、海外姉妹都市の在り方、候補地の選定、さらには海外姉妹都市との交流事業、こういったことを、ご検討ご協議をいただきまして、最終的には提言としてまとめていただきたいと思います。後ほど、設置要綱の説明等で詳しくはご説明すると思いますが、端的にお願いするのは、そういうことであります。

海外の都市と姉妹都市を結ぶかどうかを含めてご検討いただくわけですが、もともと急遽思いついたというわけではございません。長期総合計画の中に位置づいておりまして、今後、市外との交流を増やしていくとともに、海外との都市とも交流を検討すべきだということがあることと、さらには、平成3年に遡りますが、大空町、当時の女満別町と姉妹都市を提携したときにも、こうした検討市民会議を開いていただいたわけですが、その提言書の中にも、今回は女満別との姉妹都市締結ではありますが、将来的には、海外とも検討すべきだのご意見をいただいています。

長年の懸案課題ということは事実ではありますが、残念ながらこの間、具体的な話はないまま、今日まで推移をしているわけではございますが、今回、そのようなことを踏まえて海外との姉妹都市提携をご検討いただきたい、ということでもあります。

少しお時間をいただきまして、私の考えをお伝えしたいと思います。

まず、海外と姉妹都市の提携をするかどうか、あるいは海外の都市と交流をするかどうかということですが、もともと私は、やや否定的な考えを持っていました。かつて、市の職員、あるいは市議会議員について、海外への視察研修、こういったものが公費で予算化されていた時期も昔はありました。国でも都でも、あるいは近隣の市町村でもそういうことが行われておりました。やや実施の中身が、観光旅行とどう違うのかというようなご批判もあり、また、バブル崩壊とともに、景気も悪くなり、そうしたところにお金が回らないということで現在に至るということでもあります。私も、今回この話を提案するにあたって、そういった趣旨での海外交流であれば、やはりやるべきではないだろうと考えておりますが、今後のオリンピック、あるいは子どもたちの国際化という非常に大きな課題がある中で、具体的にどのように取り組むべきかという中で、海外の拠点として姉妹都市が締結できたら、非常に事業としては先に進むのではないかと、そういうことを含めまして、海外都市との交流をご提案しているわけですが。

そして、これまでの国内での姉妹都市あるいは友好都市のことを若干振り返ってみたいと思います。まず、女満別町現在の女満別町となつてはありますが、こちらとの姉妹都市に至る経過でございますが、もともと当時の女満別町長並びに女満別の教育委員会さんの方が、女満別のお子さんたちに広く洗練された社会性を身に付けさせたい。かといってあまり大きな町とでは、交流が釣り合わないということで、是非東京の比較的小さいまち、そこと姉妹都市が結べないかなということで探していたという風に聞いています。たまたま偶然、稲城市内に「松樹路人」さんという画家の方が住んでおり、そういう縁もあって、

女満別町から交流をしないかというお声掛けがあったと聞いています。そして平成2年8月に姉妹都市の提携検討委員会が初めて稲城市で設置され、そして、提言あるいは現地視察を経て、平成3年に姉妹都市の提携を結び、以後、一般市民の交流がスタートして、今日に至るということですが、今ではお子さんたちの交流、ホームステイのみならず、産業・農業・芸術文化など様々な分野に交流が拡大し、今日に至っていると思います。

そして、野沢温泉村については、稲城市教育委員会側が、話を持ちかけてということにあります。もともと、稲城市教育委員会におきまして、子どもたちの健全育成とともに、親からの自立を促すということを非常に課題としてとらえており、そうした事業を行いたいと、具体的には長期間親元から離して合宿生活、移動教室など、そういうことをやるにしても提携先がないということで探していたということを知っています。当時の稲城市の教育長と野沢温泉村とが個人的なお付き合いがあったということも聞いてはおりますが、そういう関係もあり、平成17年に「あつまれ稲城っ子！野沢温泉塾」を実施し、これは今も継続していますけれど、小学6年生のキャンプ村、それから温泉宿を含めた移動教室、そして中学1年生のスキー教室の二本立てで、野沢温泉と子どもたちとの交流を行ってきたわけでございます。それから約10年、昨年話ではありますが、野沢温泉村の村長さんから、是非、子ども達の交流のみならず、一般の市民にもこの交流の輪を広げてもらえないか、友好都市のようなものを締結できないかということで、私に依頼がありました。以後、今年の6月に友好都市提携検討市民会議で現地に行ってくださいまして、7月に提言をいただき、来月に友好都市締結に至るということでございます。協定締結後には、広く市民にも交流をしていただく事業を順次組んで行きたいと考えています。

最後に相馬市との関係であります。こちらは、相馬市の立谷市長さんと、当時、震災の前に遡りますけれども、前稲城市長であります石川良一さんと道路整備促進期成同盟会全国協議会、要は、道路整備を進めていこうという有志の市長が集まった会の役員だったということがあって、石川さんと立谷市長とが個人的に繋がりがあったということからはじまりました。その後、平成23年3月11日に東日本大震災が起こり、翌日には、稲城市から派遣救助の隊を出動させ、それ以来のお付き合いではありますが、その年の4月に統一地方選挙がありまして、市長を私が引き継いだということがあります。

石川さんからの事務引継では、一番大きな課題として、是非、東日本大震災の復興支援、相馬市への支援は特段の配慮をしてほしいというお願いを受け、それから、継続をして支援を行ってきました。被災地三県については、非常に広域な被害がありましたが、石川さんと立谷市長さんとのお付き合いがあったということで、相馬市に主に支援をするということ、異論もあるのかなということがありまして、これは是非、個人間の付き合いではいけないということで、私が市長になってから6月になります。災害時等相互応援協定、こちらが被災したら向うから助けてもらう相互応援の協定を結んで、以後、この協定に基づいて現在まで職員を派遣し、復興支援をしているわけでございます。このような関係でお付き合いが始まりました。友好都市につきましては、私の方からなのですが、せっかく相馬市という地の利もいい、また、現在は東日本大震災の復興途上にありますけれども、歴史や文化もある、特に野馬追という1000年続く素晴らしいお祭りがあり、災害をきっかけにつきあった市ではありますけど、是非、災害時のみならず、平時にもお付き合い

を繋げることができたらということで相馬市さんと友好都市を締結できないかと、昨年7月に立谷市長に書面をお送りしたところ、関心を示され、是非それに向けて検討を進めてまいりましょうということではじまり、こちらからは、5月に市民検討会議にて現地視察、7月に提言をいただき、8月に協定を結んだということでもあります。こちら一般市民の交流はこれから具体的な事業を進めていくということでございます。

これらのように、国内3団体との姉妹都市・友好都市につきましては、どちらかと言いますと、発端は個人間のつきあいであったのかなということでもありますけど、それが、双方の検討委員会の現地視察あるいは交流、そこからはじまって締結をし、その締結をスタートとして、市民交流に花を開いていくという、基本的には同様の手続きを踏んでおります。

今回の海外姉妹都市の件につきましても、基本的にはこれまでのところ、同じような経緯を踏んでいるのかなというふうに思っています。是非、その辺を含みおきいただきながらご検討していただきたいと思えます。

なお、9月議会で、今回の海外との姉妹都市提携についての検討をスタートするための予算を上程し、市議会の判断を仰いだわけでありますけれども、様々なご意見がある中では、海外姉妹都市の締結をすることに少し急ぎ過ぎているということをいただきました。この海外との姉妹都市を検討するという事は、非常に重要なことだし、大切なことだけれども、結論を急ぎすぎじゃないかと修正を頂きまして、結果的にはここにいらっしゃる代表の代表者に年内に現地視察をしていただこうと思って予算要求をしたわけですが、そちらについては先送り、ということで、この会を立ち上げ検討していくことは、良いということで、その予算については議決をいただきました。

そのようなことで、年度内については、海外との姉妹都市その在り方を是非じっくりとご検討いただきながら、また、次につないでいっていただければというふうに思っております。

大変冒頭の御挨拶が長くなって恐縮ではございますけれども、ご検討をよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

宇田係長：それでは、市長は公務の都合で、ここで退席させていただきます。

【市長退席】

【配布資料確認】

宇田係長：(配布資料確認)

【議題1】委嘱状の交付

宇田係長：(委嘱状の机上配布)

【議題2】自己紹介

(各委員より自己紹介)

宇田係長：ありがとうございました。なお、本日ですが、稲城市農業委員会の松本会長は所要によりご欠席となっていることを申し上げます。引き続きまして、事務局の紹介をいたします。
(事務局より自己紹介)

【議題3】稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議設置要綱について

杉本課長：（資料2に基づき、要綱の説明）

宇田係長：それでは、只今の設置要綱について、何かご質問はありますでしょうか。
（質問なし）

【議題4】委員長・副委員長の選出について

委員：友好都市提携検討市民会議で委員長を務められた、商工会の奈良部会長が委員長よろしいのではないのでしょうか。

＜出席委員の拍手により承認＞

宇田係長：委員長は、奈良部様をお願いしたいと思います。

委員長：副委員長は、サポートセンターいなぎの角田享さんをお願いしたいと思います。

宇田係長：角田委員、いかがでしょうか。

委員：指名ですから、お受けいたします。

宇田係長：それでは、改めまして奈良部委員長と角田副委員長に一言ずつご挨拶をいただきたいと思っています。

委員長：私は、20歳の成人祝いに、父親から海外旅行をさせてもらい、人生の中でもこんな素晴らしい経験はなかったというくらい、良い経験をさせてもらいました。今度は私が、将来を担う地域の子どもたちや若者たちに、同じような経験をさせてあげられたらと言う思いで、委員長を務めさせていただきます。

副委員長：マスコミ報道を含め、市民の中で海外姉妹都市について関心を持っていただけたことは、大変良かったのではないかと思います。国際化する時代の中で、どういう姉妹都市の在り方が良いのか、そういった議論ができる場所が稲城でも改めてできたのはいい機会ですので、稲城にとって、市民の皆様に歓迎されるような、なんらかの仕組みを作ることができればと思います。

宇田係長：それでは、これより先の議事の進行については、奈良部委員長をお願いいたします。

【議題5】フォスターシティ市に関するこれまでの経過等について

委員長：それでは、議題の5『フォスターシティ市に関するこれまでの経過等について』。事務局より説明をお願いします。

杉本課長：海外姉妹都市提携に向けて、様々な角度から多角的なご検討をしていただければと考えております。それを踏まえて、6月、9月議会で名前が出ておりました、アメリカのフォスターシティ市に関する経過について、概略をご説明させていただきます。

【資料3に基づいて説明】

このような形で、フォスターシティ市とのきっかけはあったのですが、市としましては、本市民会議の中で、期限を年度内ということに限らず、十分にご検討・ご意見をいただいた中で、海外姉妹都市提携について進めていただければと思います。

委員長：この件に関して、委員の皆様の率直なご意見をいただきたいと思っています。
お一人ずつ、順番にご意見をお願いいたします。

委員：フォスターシティ市がどのような交流の内容を検討されているのか知りたいと思いました。

委員：どんな交流ができるのか、そういったところを具体的に検討していった方がいいと感じま

した。なお、意外と人口が多くないこと、街並がすごく綺麗なこと、9割の方が白人とアジア人の方ということで、それなりに治安も良さそうだと感じました。

委員：フォスターシティ市は、英語圏であり、交流をするには子ども達の教育という面でも良く、飛行機の乗り継ぎが直行便ということも良く、日系企業があるという部分も、日本人に対してという部分や、安全な街だという部分でもいいのかなと思いました。稲城には海とか湖がないので、ラグーンとか海が近いという部分は交流をする上でも価値があります。また、一番はスポーツが盛んなところで、稲城もヴェルディや野球のジャイアンツの練習場があったりするので、そういう部分では共通点のある街だと感じました。最後に、防災の部分ですが、いざ災害があった時には協力ができればなというところではあります。

委員：かなりのスポーツ施設が充実しているということですので、稲城もかなりサッカー、野球が盛んで、特に子どものサッカーはとても熱意を込めてやっていますので、子どもたちのスポーツ交流ができるといいと思いました。また、英語圏であることも、大事な一つと思います。なお、稲城市にはホテルが少ないので、交流をする上では、ビジネスホテルくらいできるような形でやれば、もっといろいろと交流が盛んになるのではないかと思います。

委員：フォスターシティは、地理的にも西海岸ですし、気候的にも非常にいいところなんだろうなと想像が付くのですが、一つ心配なのが、交流ということを考えると、稲城としてのおもてなし。宿泊施設の整備ができていなかったり、あるいはホームステイの考え方の温度差等そういったところと、フォスターシティ市側と稲城市側で違いがあるのではないかと懸念しています。せっかくの姉妹都市の提携であるのであれば、やはり行くだけではなくて、迎え入れる体制というのも考えた方がいいと思います。

委員：子ども達との交流を考えると、フォスターシティ市は距離が遠すぎるのではないかの思いもありますが、フォスターシティ市がダメというわけではなく、海外姉妹都市自体は賛成でありまして、フォスターシティ市以外にもまだまだ他にいろいろな国や街を調べて、皆さんと一緒に、一からスタートして検討しながら決めていきたいと思っています。何も焦ることはなく、決めるのは来年、再来年でもいいと私は思っています。その検討をした上で、それでもフォスターシティ市はいいねということになればそれはそれで良いと思いますので、そのための検討委員会ではないかなと思います。

委員：英語圏ということに関しましては、英語が世界のスタンダードになっていますので、非常に賛成です。また、子どもの交流にフォーカスを合わせていますけど、私の世代にとっても、語学留学を積極的にやっているのでも、その行き先が姉妹都市であるならば、非常に有意義だと思います。それから、フォスターシティ市については、今非常に話が盛り上がっているので、結婚と同じように、盛り上がっているうちに早く姉妹都市の締結をしてしまった方がいいというのが私の意見です。

委員：子どもたちの交換留学先を考えると、フォスターシティ市は治安が整っていて、受け入れ態勢も整っているとうことなので、ちょっと安心かなと思います。こちらの受け入れ態勢に心配はありますが、もし姉妹都市が叶ったら本当にいいと思います。

委員：海外姉妹都市はホームステイとか英語を学べる良い機会だと思います。フォスターシティ市に行くには費用などがかかるので、もし稲城市の受け入れ態勢が整えられるのであれば、

先にフォスターシティ市から稲城に来ていただくことができたらいいと思います。

委員：もっといろんな形で検討した方がいいという意見にどちらかというと賛成です。英語圏ということについても、アメリカ、イギリス、オーストラリアだけじゃなくて、後進国であっても、一生懸命英語を学んでいる。そういう国でも構わないと思います。治安については、どうしても有る程度以上の治安がないとまずいと思います。場所については、比較的稲城市から近いところがいいと思います。また、どのように受け入れるのか、あるいは、向うに行くのか、どういう交流ができるのか等いろいろな方面から検討していくべきだと思います。

委員：以前もらった資料では、最初の会議は10月1日、次が15日という話があった。市長の最初の話でも、そのことは一切触れられなくて大変残念です。さらに、もらった資料3では、これまでの経過について全然わからない。視察も二日間で何をやってきたのか全然書いておらず、全然わかりません。もう少し私たちにわかるように資料をください。また、議会の中で、どのような議論があったか等、その辺のことをきちんと説明していただきたいと思います。以前も稲城市として、教育委員会で海外交流の予算を計上していた年が数年続いたことがありました。その辺がどうなったのかを含め、教えてもらいたいと思います。それから、稲城ロータリークラブも、いろいろな形で海外の方と交流をやっています。ロータリーの会員さんからいただいたお金を使って、海外留学の受け入れやホームステイなどをしたりしています。海外留学生の多くは中国人であり、現在、中国とは様々な問題があり、国としてのやりとり等、難しいところではありますが、現実として、そういう交流も行ってきています。今、ご質問したことは、すぐ答えられないこともあると思いますので、次回までには紙で結構ですので、調べておいてください。

委員：国際ソロプチミストでホームステイをする場合には、本職の方に間に入って仲介をやっていただいているので、心配なく、子ども達を送り出すことができます。しかし、この件で将来的に海外派遣などをした場合、どういう方が仲介に入ってやっていただけるのでしょうか。市の職員の方が相手方のホームステイ先や場所、そういうお世話をしてくださるのでしょうか。なお、姉妹都市ということは、中高生ばかりではなく、我々大人たちも交流を深めていきたいということなので、いろいろ検討してきた中で、フォスターシティ市が候補として選ばれたのかなと思っていました。長く検討されてきたのであれば、このフォスターシティ市で話を早く進めていっていただいた方が、交流を深めるチャンスが早く来るので、うれしく思います。

委員：新聞報道等によりますと、補正予算に馴染まないという点、それから姉妹都市提携について、否定はしないけれども余りにも早急だという点であると読み取れるのですが、どのような状況なのかを、事務局でお話ができる範囲でご説明いただければと思います。

また、資料3の1ページ目の真ん中に、萩原氏を含む4人が現地視察をしたとありますが、この視察に当たって、萩原氏がどういう立場で視察に行かれたのかが市民としては分かりにくい点でした。通訳で行かれたのかなど、お教えいただければと思います。

それともう一点、今日、こういう候補地があるということがポンと出てしまっていますが、海外との交流は、稲城でもありましたし、稲城国際交流の会でも、チベットの稲城からチベット語で姉妹都市になりたいとの文書ももらったこともあります。やはり稲城

市の海外交流の歴史をこの際、整理をした上で、海外姉妹都市について進めて行く必要があるのではと考えます。

今日、会議の1回目ですので、いままで市民の関心のあるところや、モヤモヤしたところを少しお話いただければなど、個人的には思います。

委員 長：商工会では「フォスターシティ市との交流を何としても進めて、勉強していきたい」という意見が大半でした。最近よく言われている話で、新奇探索性に欠ける人間が非常に増えたということがあります。これは新しいことをやる時に、少し危ないから止めようとする人が多いということでもあります。しかし、今の商売などでは、新奇探索を続けいろいろなことにチャレンジしていかないと進歩は全く生まれません。

そのようなことを考える中で、商工会としては、早急に繋がりを持ってくださいという意見が多かったことをご報告させていただきます。

委員 長：皆さんからいろいろ意見が出ましたが、事務局の方は何かございますか。

武藤 部長：様々なご意見をいただきまして、今、お聞きした中でも、進めるべきご意見や、もっと十分議論すべきとのご意見もありました。また、今日お示した資料の中で不十分なところもございました。この辺につきましては、ここで今お答えするのではなく、文書できちんとお答えした資料を、次回の会議の席でご提出できるように、まとめさせていただきます。特に事務局としての考えは、先ほど市長が申し上げた通りで、皆様にはご忌憚のないご意見をいただき、十分にご議論いただける場を我々も作っていただければと思っております。どうぞその点をよろしく願いいたします。

委員 長：それでは、次回以降は、海外姉妹都市を締結する意義、過去の海外との交流実績等について、意見を出しながらこの会議の中で検討をしていくということで、よろしいでしょうか。

皆さん、ご意見はございますか。

委員：それでいいと思うのですが、これだけ検討する内容にボリュームのある中、どういうスケジュールで会議を進めていくのかをしてお話いただきたい。

武藤 部長：実際問題としましては、ゼロからのスタートというご意見もございます。その辺も含めまして、先ほどもご説明しましたが、この年度内で一定の結論を出すような予定は全くございませんで、議論をしていただきながら、その進め方も皆様からの色々なご意見をいただいて、臨機応変にやっていきたいと思っています。

委員：わかりました。

【議題6】 次回の開催について

委員 長：それでは、議題の6『次回の開催について』。事務局より説明をお願いします。

宇田 係長：(日程調整)

今回は、11月25日(水)夜7時から消防署講堂に決定

武藤 部長：少し補足を申し上げます。今回様々なご意見を頂きましたが、これに対する資料につきましては、先ほどのご回答も含めて、ご欠席の委員さんもいらっしゃることもありますので、事前にお渡しするように努めてまいります。

それから、今日の議題の中で、皆さんからご意見をいただきましたが、まだ、言いそびれたことや、もう少し聞きたかったこと等がございましたら、後日、文書で事務局の方に

ご提出いただいても結構でございます。その点につきましても、資料としてしっかりまとめて、提出させていただきたいと考えております。

委員長：最後に何か連絡やご質問のある方はいらっしゃいますか。

委員：会議の進め方として、プロジェクターやパワーポイントを使った方法を検討していただければと思います。

委員長：ほかに何かありますか。

(なし)

委員長：それでは、これで第1回稲城市海外姉妹都市提携検討市民会議を終了いたします。本日はどうもありがとうございました。